

第5回セミナーを8月1日(土)13:30～15:30 に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会 場 愛知文教大学 201 教室
テ ー マ 「ケアのある関係性に支えられる学び合いとは」
授 業 者 春日井市立中部中学校 海元大輔先生
コメンテーター 学び合う学び研究所事務長 永井勝彦先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、ケア、希望、活動、幸福、環境と関係性です。

海元先生、永井先生ありがとうございました。今日のセミナーは授業ビデオのあの体育館と同じでし～んとした静けさから始まりました。何の静けさだったのでしょうか？

セミナーが始まる前、ビデオ視聴中、グループ対話中、永井先生のコーディネート中、セミナー後、そして今、すべて浮かんでいるものがちがいます。こんなにかわっている自分に驚いています。ありがとうございました。

今日出なかった話を書きます。グループの距離がかなり離れていました。5月か6月かのセミナーで倉知雪春先生がおっしゃっていました。最近あまり言われませんが、応時中学校で研究当初によく言われていたように思います。さらにたくさんの定石に忠実でした。やはり、素直・謙虚・誠実・正直・感謝・省察・学び…が大切ですね。

今浮かんでいるのが、遠藤利彦さんや佐藤暁先生がよくおっしゃるアタッチメントです。こわいとき、不安なときにしがみつく、安心できるもどれる基地の存在です。あの生徒のどれもがそれぞれどこかに何かそこがある？だからそこにいられる、先生や仲間が信じられる、つながれる、わからなさを聴いてもらえる、自信をもって探究・発見・挑戦ができる？

知多中学校の先生方のもっともやわらかく、温かい永遠の関係性が、生徒にすべて鏡のように映っているように思います。すてきな時間をありがとうございました。これからもいっぱい學ばせてください。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、アの関係性があってこそ学び合いが進んでいくことが確認できた。学校として取り組むこと、校内の研究を適切に支援していただける外部協力者の存在も大きい。校長先生と教務主任の先生のインタビューは、まさに「授業を変える」→「子どもが変わる」→「教師が変わる」→「学校が変わる」のプロセスを物語っていることです。

自分は昨年11月6日に知多中にお邪魔して授業を拝見しました。あらためてビデオと授業記録から見えてきたことがあります。1つ目は、ジャンプの課題は上位の子でもすぐにわからないレベルですと、下位の子も関われるし上位の子にもプラスの経験になること。自分が学校を回らせていただいて「ジャンプ課題はむしろ下位の子に有効」ということの説明がうまくできなかったのも、とても参考になりました。2つ目は、子どもたちがたんに関わり合っているだけでなく、教材を媒介にして関わり合っていること。学び合う学びが進むとはこういうことではないかと思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、ケアのある関係性が安心して学べる環境をつくるです。

海元先生の授業は、リアルタイムでも見せていただきました。改めて映像で確認すると、要所、要所での教師の判断が生かされた授業デザインだと感じました。授業は生き物です。用意周到に考えて臨んでも、その時の状況で子どもの反応は変わります。それをプラスに動かしつなげていくには教師のその場における判断力が試されます。海元先生は、冷静に子どもの様子を観察し、授業をデザインされていました。学び合う学びにおける主役は子どもたちですが、環境をつくり動かしているのは教師だということを、あらためて認識しました。

永井先生には、具体的な場面を使って子どもたちが互いにケアする関係性を説明していただきました。実際の映像と具体的な発言内容から、子どもたちの関係性を見取っていくことは、難解なことですが実りあることだと感じました。有意義な時間を提供していただき、お二人に感謝いたします。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、45 分の授業の中で、様々な班でい

ろいろなケアが行われていたこと。困り感が見える先生が寄り添うことで相手の立場に立ち、必要なことを察する子どもを育てることができることです。

ありがとうございました。改めてグループで授業を行うことの大切さに気づくことができました。知多中の最初の時を知っているからこそ、どうやって授業を行おうと考えていたことを思い出しました。ペアで話すことを授業で取り入れ、聞く力をつけていきたいです。